

焼津市ゆかりの作家小泉八雲の地域資源としての活用

—焼津&八雲YYプロジェクト—

静岡県立大学 国際関係学部 細川光洋ゼミ

指導教員：教授 細川光洋

参加学生：原田幸枝、青島沙紀、佐々木真子、鈴木麻友子
平松里苗、倉田麻有、生熊美汐、澤野華世子

1. 焼津&八雲YYプロジェクト

『怪談』で知られる文学者小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は、晩年、夏の避暑地としてしばしば焼津を訪れ、家族とともに海水浴などをして過ごした。八雲は、焼津の風物や伝承をもとに、「焼津にて」「乙吉のだるま」「漂流」等の作品を残している。焼津小泉八雲記念館における展示をはじめ、地元「小泉八雲顕彰会」による顕彰も継続して行われてきた。しかし、八雲にちなむ土産物が地元でほとんど企画されたことがないなど、地域とのつながりという面では課題があった。

こうした現状をふまえ、静岡県立大学細川光洋ゼミ（日本近代文学専攻）と焼津小泉八雲記念館、焼津市観光協会の3者の連携によって立ち上げたのが、「焼津&八雲YYプロジェクト」である。小泉八雲とその文学作品を「地域の文化資源」としてとらえ直し、文学を通して地域の魅力を広く発信していくことを目指している。また、八雲作品の重要なモチーフである「妖怪」を緒口として、学生たちの柔軟な発想力をもとに、これまで文学に関心のなかった若者層へのアピールをはかることもねらいとしている。

2. 研究の目的

本研究は、「地域資源としての文学」をプロジェクトテーマに、焼津市ゆかりの作家小泉八雲と地域とを結びつけ、新しい地域デザインに取り組み、焼津市の潜在的な魅力を発掘し、活性化させることを目的とする。

3. 研究の内容

昨夏、細川ゼミ、焼津小泉八雲記念館、焼津市観光協会の3者による連携プロジェクト「焼津&八雲YYプロジェクト」を発足。記念館、観光協会との話し合いの中で、課題としてまず以下の2点が挙げられた。

- 小泉八雲に関連した焼津の特産品が現在はない〔PRできるグッズがない〕（観光協会）
- 焼津小泉八雲記念館を訪れる来場者のほとんどが年配層であり、若者層の関心を高めたい（記念館）

これらの課題に取り組むために、①小泉八雲にちなんだ商品の開発提案、②八雲作品と地域とを結びつける学生による朗読会の実施、を先行して行うことを決定。この企画方針に基づき、以下の4. 成果(2)のような活動を行った。

また、企画提案を充実させるために、八雲作品をゼミで読み込み、焼津市内の八雲ゆかりの地を歩いて、案内板の設置状況などを調査している。単に調査するだけでなく、それを具体的な提案・行動に繋げていくことを心がけてプロジェクトに取り組んだ。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

当初の計画では、「商品開発」「朗読会」の企画の他に、「学生の案内による文学散歩」（ゴーストツアー）、「文学散歩コース冊子づくり」、「浜通り（八雲通り）活性化への提案」などを考えていた。「商品開発」「朗読会」を先行させたのは前記の理由にもよるが、「文学」としての魅力を伝えるためには、提案者（学生）自身がより深く八雲作品を知り、具体的に街歩きを実施して〈体験〉する必要があると考えたからである。後者については、継続する取り組み課題として(4)今後の改善点に挙げた。

(2) 実際の内容（Aは予定どおり、Bは一部修正、Cは中止など）とその理由

B：一部修正

B評価としたのは、「文学散歩」「冊子づくり」を形にすることができなかつたため。「商品開発」「朗読会」については以下のように実施し、外部からの評価も得ている。実施プロジェクト全体としては、「A評価」としてよいと考えている。

(3) 実績・成果

「焼津&八雲YYプロジェクト」の主な活動実績は、以下の通り。

①「焼津&八雲YYプロジェクト」公開プレゼンテーションの開催（於：焼津小泉八雲記念館）

9月9日（金）焼津の地元企業・行政関係者の方々を招いて、「妖怪おでましマグカップ」や「魚河岸手ぬぐい」などの商品アイデア、八雲妖怪によるLINEスタンプの製作、学生による「朗読会」や八雲ゆかりの地を巡る「文学散歩コース」作りなどの企画提案を行った。焼津の企業の方々に直接アイデアを発信することができ、会場で貴重な意見もいただくことができた。この公開プレゼンをもとに、朗読会などの実現に繋げることができた（約70名出席）。

公開プレゼンの内容は、「静岡新聞」9/7朝刊、「中日新聞」9/10朝刊でも写真入り記事として紹介された（「静岡新聞」の掲載内容は、8/31の事前プレゼンでの取材による）。

②「焼津&八雲シール」の製作〔10-11月〕

焼津と八雲のつながりをアピールするために、ゼミ生たちによりデザインされた「焼津&八雲シール」。配色についてもゼミで話し合いを重ね、色は焼津のシティカラーの水色で、封筒に封ができるように横長の楕円にした。11月の八雲作品の朗読会の会場で「みそまん」販売を行う際、出店してくださった老舗和菓子屋油屋の「みそまん」の包みに貼らせていただき、販売を行った。用意されていた180個全ての「みそまん」を完売。

焼津小泉八雲記念館で、いくつかの色のヴァリエーションを加え、今春より実際に販売の予定。

③朗読会「八雲作品の朗読と箏曲のしらべ」の開催（於：焼津海蔵寺本堂）

11月27日（土）YYプロジェクトによる初のイベントとして開催。八雲作品「漂流」の実際の舞台となった海蔵寺（焼津市小川）の本堂を会場として、静岡県立大学箏曲部の協力のもとに行った。

演目は、前半「雪女」、「水面」（箏曲演奏）、後半「漂流」。海蔵寺での下見を重ね、照明を落とし、蝋燭の灯りに青色LEDライトで海中の雰囲気を出すなど、演出にも工夫。会場では、ゼミで製作した「焼津&八雲シール」貼付の「みそまん」を販売。地域の中の文学にあらたな光をあてる企画となった（約70名参加、学生主催のイベントということもあり20-30代も参加）。

朗読会の模様は、「静岡新聞」11/29朝刊で写真入り記事として紹介された。また、当日「静岡時代」の取材を受け、朗読会の動画をfacebookで紹介・発信していただいた。

来場者のアンケートにも、「またぜひやってほしい」「情景に合わせて箏曲を奏でる様子がなんとも美しく、夕暮れ時ということも相まって、怪談をするにちょうど良い雰囲気でした」とあった。

④「魚河岸手拭い」（八雲手拭い・妖怪手拭い）の製作〔12-2月〕

焼津に馴染み深い「魚河岸手拭い」と小泉八雲をコラボさせたオリジナルデザインの手拭いの考案。八雲の後姿と「焼津」、「八雲」の文字をちりばめたものと、八雲の作品『妖魔詩話』に登場する妖怪「古椿」、「海坊主」、「船幽霊」、「ろくろ首」、「狐火」の5体をモチーフにした「妖怪手拭い」の2種類。この「妖怪手拭い」は、八雲が実際に手がけたイラストをもとにデザインし、「注染」という静岡の伝統技術を用いて製作（3月中旬染め上がる予定）。2種類の帯封も学生たち自らデザインした。八雲作品をモチーフにした手拭い製作については、2017年2月17日「朝日新聞」でも紹介された。焼津小泉八雲記念館が来年度開館10周年を迎えることに合わせて、今後商品化を検討している。

(4) 今後の改善点や課題

(1) 当初の計画項でもふれたが、地域（焼津）と八雲文学とを結びつける「学生の案内による文学散歩」（ゴーストツアー）、「文学散歩コース冊子」作りが課題として残っている。プロジェクトを継続させて取り組んでいきたい。またその中で、松江の小泉八雲記念館や島根県立短期大学における小泉凡教授（八雲の玄孫）の地域づくりプログラムの取り組みも視野に入れ、併せて（焼津-松江連携プロジェクト）の可能性も探っていきたいと考えている。

今回、助成金によって製作した試作品（シール、手拭い）は、地域と文学とを結びつける一つの「提案」として行ったが、商品化に結びつけるには、実際にどのようなニーズがあり、観光客などにどのようにタッチポイントを設定していくか、さらに調査していく必要がある。

そのためには、まず焼津において小泉八雲の知名度をより高める必要がある。「文学散歩コース冊子」作りなどを通して八雲への理解を深め、焼津の企業の方々にもより説得力を持って提案できるようにするのが今後の課題である。

5. 地域への提言

文学作品を「地域の文化資源」としてとらえ直し、文学を通して地域の魅力を広く発信していくこと—これが本研究（プロジェクト）の一貫したテーマである。

八雲の滞在先であった「浜通り」（八雲通り）では、NPO法人「浜の会」による「あかり展」が8月初旬に開催されている。照明を落とし、灯籠の「あかり」で通りを照らすイベントである。例えば、この「あかり展」で八雲作品の朗読会や「妖怪灯籠」などの出品も可能ではないだろうか。地域での八雲の存在価値を高め、焼津のイベントで八雲と結びついた企画が提案されていくことが望まれる（今夏、「八雲小唄」と組んで朗読イベントを企画）。

6. 地域からの評価

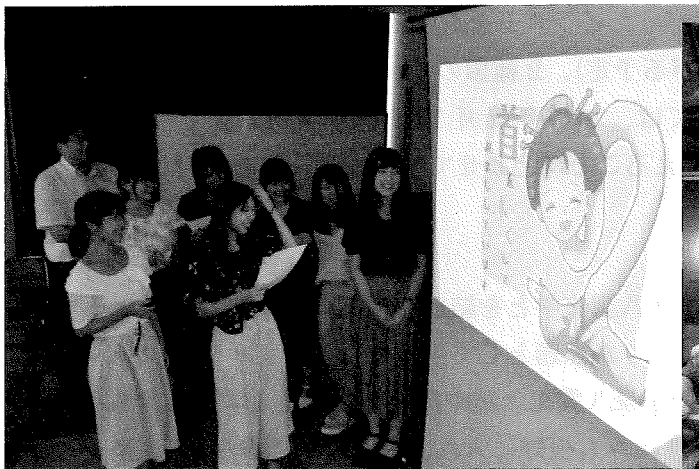
「焼津&八雲YYプロジェクト」はアウトリーチ活動の一つとしてTwitter（八雲焼津プロジェクト）を利用し、活動のツイート（発信）に対して多くの励ましの言葉をいただいている。9月9日の公開プレゼンテーション、11月27日の「八雲作品の朗読と箏曲のしらべ」はそれぞれ「静岡新聞」「中日新聞」に写真入り記事として取りあげていただき、地域からの注目度や期待感の高さもうかがえる。

昨年12月3日（土）には、第3回静岡県カレッジ・サミット（於. 静岡文化芸術大学）に大学代表の招聘ゼミとして参加し、発表を行う機会も得た。

「焼津&八雲シール」、「八雲手拭い」「妖怪手拭い」は、今後、観光協会・記念館を通じて、実際に商品化してゆく予定である。

これらの成果をもとに、次年度以降も「責任を持った提案」ができるプロジェクトとして、地域とともに課題に取り組んでいき、期待に応えたいと考えている。

〈焼津&八雲YYプロジェクト〉



9/9 公開プレゼン（焼津小泉八雲記念館）



11/27 朗読会（焼津市海蔵寺本堂）

焼津&八雲 YYプロジェクト

八雲作品の
朗読と箏曲のしらべ

出演 静岡県立大学生 & 県大箏曲部

演目

- ◎ 朗読「雪おんな」
- ◎ 箏曲「水面」(沢井忠夫)
- ◎ 朗読「漂流」

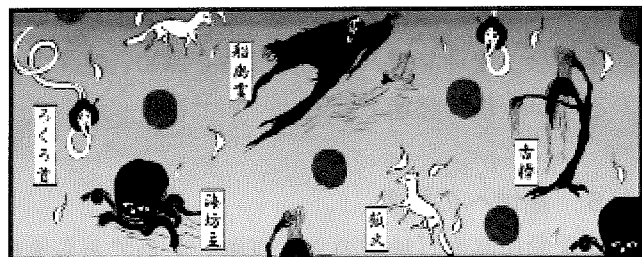
2016/11/27 Sun 開演 16:00

海蔵寺本堂（東小川）

定員 50 人（申込順）
申込方法 電話または窓口で

焼津小泉八雲記念館 054-620-0022

朗読会のポスター／チラシ



八雲のスケッチによる「妖怪手拭い」